

Defence Doc. 1631

No. 1

文書ノ出所並ニ成ニ関スル證明書

(三號)

自分林君ハ外務省文書課長ノ職ニ居ル者ナル處ニ茲ニ添附セラレ
タル日本語ニ依リテ書目ニ十二頁ヲ成ル新通商條約締結
ニ関スル第四次東京會談ト題スル書類ハ日本政府(外務省
保管官ニ係ル)公文書ノ扱テ正確ニシテ且ニ實ニ寫ニテハニ
トシ證明ス

昭和二十二年五月十五日

於東京

林

君

(林)

右署名捺印ハ自分ノ面前ニ於テ為コレタリ

同日於同所

之會人

佐藤武五郎

(佐藤)

新通商條約締結ニ関スル第四次東京會談

昭和十四年十二月二十一日午後五時ヨリ約一時間大臣官邸ニ於テ

先ヅ「グルー」大使ハ日米關係打開ノ為ニ日本側ノ為ニシタル努力ヲ多ク

トスル旨ヲ述ベ次イテ前會談ニ於テ日本側ノ為ニシタル新條約締

結交渉開始ノ提議ニ関シテハ米國政府ハ日本政府ノ參考迄ニ

其ノ立場ヲ明セシ「ステートメント」ヲ用意セル旨ヲ述ベ別添如キ

非公式書物(別添甲號參照)ヲ野村大臣ニ平交セリ右ハ米國

政府ハ「通商上權利及機會均等原則」ヲ通商條約締結

基礎條件ト為スモ「ニ」テ從テ右原則確立カ新通商條約締

結ノ先決要件ニテ又夫レハ單ニ相手國ノ政策及措置カ問題

ナル「ニ」ズ相手國ノ勢力下ニ存スルオ「國」ニ於ケル米國人ノ取扱ニ関

スル點モ問題視セラルモ「ナル」處目下日本軍ノ占領治下ニ於テハ

種々ノ通商居位移動等ニ關スル制限存在シ米國ノ商業上權

益ニ討スル均等待遇不可能ナラシメ居ルヲ以テ右ハ新條約締

結ニ討スル障礙ナルモ「ナル」指摘セルモノナリ

尚同大使ハ右「ステートメント」ニ関聯シ前任諸大臣米國側ニ討シ

テ予ヘタル禮々ノ保障カ実行セラルルコトヲ希望スル旨附言セリ次イ

テ同大使ハ暫定協定締結件ニ関シテハ米國政府ハ本問題カ茲

暫ラテ未決定ノ儘殘ヤレル(「ゴレ」ト「オ」)コトヲ提議スル旨ヲ述

ベ且米國政府見解ハ日米兩國間ニ新通商條約又ハ協定締結

問題ニ關係シ禮々考慮「要」ル事項ニ関シ野村大臣ト同大使ト

間ニ進行中ナリシ事討議ヲ續行スルコトヲ適基ト認ムル旨

述ベ(別紙乙號參照)更ニ一九一三年關稅法ノ規定ニ從ヒテ米

國ニ入ル日本船ノ裁貨ニ討シ賦課セラルベキ從價(割稅)ニ関

ニハ更ニ何分命令發セラルル迄右賦課ヲセザルベキコトヲ大藏省ハ関稅
 徵收官ニ對シ間モ無ク指令スベク且日本船ニ對スル差別的噸稅ノ賦
 課ニ関シハ右務省ハ同様措置ヲ執ルベキ旨日述ベタリ(別紙丙號参照)
 右ニ對シ野村大臣ハ米國ハ無條約狀態ニ入ルトモ日本側ノ貿易ハ「左」
 「右」ニシテ處置ヲ講ズルコトハ之ヲ多トスルモ本業通商條約ハ單ニ貿易
 關係ノミニ関スルモノニ非ズシテ一般關係ニモ影響ヲ持ツモノナル兩國
 關係ヲ安んゼシムル見地ヨリ暫定協定締結ニ関シ米國側ノ再考ヲ促ス旨
 述ベタル處「グル」大使ハ右ヲ本國政府ニ正確ニ取次ギタキニ依リ非公式
 書物ヲ得タキ旨述ベタルヲ以テ別添丁號ノ通書物ヲ後刻送付セリ
 又野村大臣ハ「オトオフ」エタブリュメントノ點ニ関スル米國政府ノ態
 度ヲ質問セルニ對シ「グル」大使ハ右ニ関シテハ返答スル地位ニテヤル旨
 應酬セリ

最後「グル」大使ハ先般ノ吾沢「ロウ」ン會談ニ言及シ華府ニ於テ日本
 側ハ具體的ナル暫定協定案ヲ用意シタルコトハ承知シ居レル旨述ベタリ
 上キ日ノ會談ノ結果ヲ本國政府ニ報告スベキ旨述ベタリ

尚發表振リニ関シテ「グル」大使ヨリ日米國交打用ニ為ニ引續キ建設的
 態度ヲ以テ會談ヲ續行シ進展ヲ見タリト云フ程度發表止メ從價一割
 稅及噸稅等ノ點ニ付テハ外部發表ヲ差控ヘラレタキ旨ヲ希望シ野村大臣ニ
 於テ右ヲ應諾セリ

別紙 甲號

「プロモエーリア」

一 米國政府ハ各國ニ對シ米國ハ國際關係ヲ「サウンド」スル為ニ基礎條件
 トシテ周知一定ノ諸原則及手續ニ依リ通商條約及協定ノ商議ニ入ル
 意ハ無キ旨ヲ屢次表明セリ

二 米國政府ハ無差別待遇ヲ以テ其通商政策ノ基調
 ト看做シ且ツ通商上ノ權利平等並ニ機會均等ノ原則ヲ
 新通商條約及協定締結上ノ唯一且ツ望ミレキ基礎條件
 ナリト思料セリ世界主要貿易國家ノ通商政策ノ歴史ヲ
 通觀スルトキ通商交渉ニ於テ各國ハ例外ナク遂ニ紛争
 ヲ惹起シ其ノ結果被害第三國ヲレテ對抗措置ヲ採ル
 ノ止メキニ至ラシメ其ノ結果國際通商關係ノ混乱ヲ齎
 ラセルニ至レルカ如キ諸原則ヲ採用セリ過去ニ於テ通商上
 主要ナル制限が関稅々率ニ存シタル時代ニハ均等待遇
 ノ一般的相互的誓言約ニ依リテ足リタルモ近年ノ如ク割
 當独占及替管理輸出入制限等ニ依ル貿易調
 整手段が重要視セラレタル以上其間均等待遇確保ノ
 タメ從來ノ一般的保障ヲ補足スベキ新規定ヲ必要トスル
 ニ至リタリ例之割當制限ニ對シ均等待遇ヲ確立セカ爲メ
 ニハ商出輸出國ニ對シ輸入國ハ輸入許可數量總計ノ内ニ
 當該輸出國ニ對スル公正ナル分ヶ前ヲ与フル機會ヲ確定ス
 ル明確ナル手續ヲ規定スルコトヲ要スベシ爲替管理ニ付キテモ亦
 之レト同様ニ通商及差別待遇實施防止レ外國爲替補給確保
 ノ爲メ手段ヲ確立スル要アリ右ノ如キ近年ノ經驗ニ鑑ミ米國政府ハ
 新通商條約又ハ協定締結ノ爲メ一國ト商議セントスルニ當リテハ其ノ
 代價條件トシテ先ツ以テ通商上ノ無差別待遇ガ保障アレ且ツ右
 待遇ヲ確保スベキ措置ノ講セラルルコトヲ要求ス

三 一國ト新通商條約又ハ協定交渉ヲ目論ムニ當リ米國政府トシテハ
 單ニ相手國政府カソノ領域内ニ通用シ居ル政策及措置ヲ

ニハ更ニ何分命令發セラル迄右賦課ヲセザルベキコトヲ大藏省ハ関稅
 徵收官ニ付シ間モ無ク指令スベク且日本船ニ付スル差別的噸稅ノ賦
 課ニ関シテハ商務省ハ同様措置ヲ執ルベキ旨述ベタリ(別紙丙號参照)
 右ニ付シ野村大臣ハ米國ハ無條約狀態ニ入ルトモ日米間ノ貿易ハ「先
 ナラシムル處置ヲ講ズルコトハ之ヲ多トスルモ事業通商條約ハ單ニ貿易
 關係ノミニ関スルモノニ非ズシテ一般關係ニモ影響ヲ持ツモノナレバ兩國
 關係ヲ安んゼシムル見地ヨリ皆是協定締結ニ関シ米國側ノ再考ヲ促ス旨
 述ベタル處「グルー」大使ハ右ヲ奉國政府ニ正確ニ取次ギタキ依リ非公式
 書物ヲ得タキ旨述ベタルヲ以テ別添丁號ノ通ノ書物ヲ後刻送付セリ
 次ニ野村大臣ハ「ナイトオブ・エタグリニユメント」點ニ関スル米國政府ノ態
 度ヲ質問セルニ付「グルー」大使ハ右ニ関シテハ返答スルノ地位ニテラハ爾旨
 應酬セリ

最後「グルー」大使ハ先般ノ旨決「ロウラン」會談ニ言及シ華府ニ於テ日本
 側ハ具體的ナル暫定協定案ヲ用意シタルコトハ承知シ居ル旨述ベタリ
 上キ日ノ會談ノ結果ヲ奉國政府ニ報告スベキ旨述ベタリ
 尚卷表振リニ関シテ「グルー」大使ヨリ日米國交打用ニ為ニ引續キ建設的
 態度ヲ以テ會談ヲ續行シ進展ヲ見タリト云フ程度卷表止メ從價一割
 稅及噸稅等ノ點ニ付テハ外部發表ヲ差控ヘラレタキ旨ヲ希望シ野村大臣ニ
 於テ右ヲ應諾セリ

別紙 甲號

「プロモモリーア」

一米國政府ハ各國ニ付シ米國ハ國際關係ヲ「サウンド」スル為ノ基礎條件
 トシテ周知一定ノ諸原則及手續依リ通商條約及協定ノ商議ニ入ル
 意欲ナル旨ヲ屢次表明セリ

二、米國政府ハ無差別待遇ヲ以テ其通商政策ノ基調
 ト看做シ且ツ通商上ノ權利平等並ニ機會均等ノ原則ヲ
 新通商條約及協定締結上、唯一且ツ望ミシキ基礎條件
 ナリト思料セリ世界主要貿易國家ノ通商政策ノ歴史ヲ
 通觀スルトキ通商交渉ニ於テ各國ハ例外ナク遂ニ紛争
 ヲ惹起シ其ノ結果被害第三國ヲレテ對抗措置ヲ採ル
 ノ止メキニ至ラシメ其ノ結果國際通商關係ノ混乱ヲ齎
 ラセルニ至レルカ如キ諸原則ヲ採用セリ過去ニ於テ通商上
 主要ナル制限が関稅々率ニ存レル時代ニハ均等待遇
 ノ一般的相互的誓約ニ依リテ足リタルモ近年ノ如ク割
 當独占、為替管理、輸出入制限等ニ依ル貿易調
 整手段が重要視セラレタル以上其間均等待遇確保ノ
 タメ從來ノ一般的保障ヲ補足スベキ新規定ヲ必要トスル
 ニ至リタリ例之割當制限ニ對シ均等待遇ヲ確立セカ為メ
 ニハ商品輸出入國ニ對シ輸入國ハ輸入許可數量總計内ニ
 當該輸出入國ニ對スル「公正ナル分」ヲ与ル機會ヲ確定ス
 ル明確ナル手續ヲ規定スルコトヲ要スベシ為替管理ニ付キテモ亦
 之レト同様ニ通商及差別待遇實施防止レ外國為替補給確保
 ノ為メ手段ヲ確立スル要アリ右ノ如キ近年ノ經驗鑑ミ米國政府ハ
 新通商條約又ハ協定締結ノ為メ一國ト商議セントスルニ當リテハ其ノ
 代價條件トシテ先ツ以テ通商上ノ無差別待遇ヲ保障サレ且ツ右
 待遇ヲ確保スベキ措置ノ講セラルルコトヲ要求ス

三、一國ト新通商條約又ハ協定交渉ヲ目論ムニ當リ米國政府トシテハ
 單相手國政府カソノ領域内ニ適用シ居ル政策及措置ヲ

検討スルノミナラス(同国)がオーストリア国内ニ於テ若ハオーストリアニ関シ米國人ニ影響
 アルキ政策及措置ニ付キテモ検討セラル得ズ即チオーストリア領土内ニ於テ右
 相手国又ハ其ノ先機関が米國ノ通商上ノ權益ニ及スル實績的且ツ繼續
 的ノ差別待遇ニ亦明カニ米國ニ執リテ有害ナルモノナレバナリオーストリアノ意向ニ及
 シオーストリアニ於テ斯ル差別待遇ノ課セラレタル際ニ於テハソノ差別待
 遇ハ斯カル待遇ヲ爲セル國家又ハ斯ル待遇ノ賦課ヲ惹起セル國家
 自作ノ執置ヲ以テ爾モ効果的且ツ迅速ニ除去シ得ル次第ナリ然ルニ
 現在日本軍ノ占領スル支那ノ廣大ナル地域ニ亘リ斯ル差別待遇ハ行ハレ居
 而シテソノ差別待遇タルヤ日本政府ノ指令ニ從フホ先官憲又ハソノ代理機関ニ
 依リ行ハレ且ツ是等ノ機關ハ支那各地ニ於テ爲替及通貨管理輸入ニ對スル
 課税並ニ制限独占並ニ航運旅行居住及貿易ノ制限手段ヲ以テ斯ル地
 域ノ經濟生活ニ日本人ノ特殊利益ヲ企圖シツアリ
 四右ノ如ク支那ノ廣汎ナル地域ニ亘リ日本政府ノ先官憲ソノ他ノ事實ニ米國
 ノ通商權益ニ對スル均等待遇ヲ不可能ナラシムルガ如ク措置ヲ講ジ居限リ日
 本ト新通商條約又ハ協定締結ノ障礙存在ス現行ノ條約ニ取極及權利
 ヲ全ク考慮シ容カレ際ニ於テモ新通商條約協定締結上ノ障礙ハ現在
 支那占領地域ニ現行ハレツアル差別待遇ノ措置ハ限リ依然除去セラザルベシ
 五一國ト通商調整ニ關スル新條約乃至協定締結問題ヲ考慮スルニ當リテ米國政
 府行政及立法當局ハ共シク相手国内及相手國ノ支配下ニアル地域内ニ於テ米
 國商品及工業ニ對シ相手國がホツツアル待遇ノミナラス當該地域内ノ米國民
 米國對米國投資及米國ノ經濟的文化的活動一般ヲ含ム米國商業
 全般ニ對シ相手國政府ノ執レル待遇ニ付キ考慮スルノ要アリ然而
 均等待遇ノ原則ガ全地域ニ亘リ適用セラレ且ツ無差別公平待遇原
 則ガ是等地域内ニ現實ニ實施セラルルコトヲ要ス

六米國政府ハ以上ヲ以テ日米兩國間ニ新通商條約又ハ
 協定締結問題ニ關聯シ最モ重要視シ居ル事項ヲ提不
 セル處日本政府ニ於テモ亦右問題ノ重要性ヲ認メラレシニ
 トヲ希望シ且フ日本政府ハ其ノ方針ノ實效ヲ示スベキ具
 体的ノ證據ヲ提示セラルルニトラ欣喜トナスモノナリ
 一九三九年十二月二十二日

別紙乙號

オーストラリアメント

日本政府ハ其ノ努力ヲ傾倒シテ日米兩國關係ニ不幸
 ナク影響ヲ及ボシテアル事能ク改善ヲ企圖シ且フ將
 來ニ亘リ此種努力ヲ繼續セントセラレラフコトハ米國政
 府ノ深ク感銘スルトコロナリ

新條約締結ノ高議促進問題ニ關スル貴大臣ノステ
 メントニ付キテハ米國政府ハ日本政府ノ「インテリメーション」
 及チ考慮ニ依リコトガ為メ米側ノ立場ニ關スルステ
 メントヲ作成セリ假條約締結ニ關シテハ米國政府ハ茲
 暫ク之ヲ未決定ノ儘ニ殘サレトト致度

米國政府ハ目下ノ處日米兩國間ニ新條約若取
 極締結方ニ關シ貴大臣ト在京米國大使トノ間ニ進
 行中ノ討議ヲ繼續スルト最モ時宜ニ適スベシト見解
 ヲ有ス

一九三九年十二月二十二日

別紙丙號

米國大藏省ハ近ク米國稅關長及關係官富白
對ニ條約消滅後ニ於テ一九一三年關稅法ニ規定ノ從
價一割ノ差別の関稅ノ徵集方ニ因テハ更ニ追加訓
令ヲ發表スル迄ハ日本船舶ニ積載ノ上米國ニ輸入ス
ル貨物ニ對シ通用ルル旨ノ通牒ヲ發表ス
尚船舶ニ對スル差別の噸稅ニ付キモ商務省ハ前記貨
物ト同様措置ヲ講ズベキ旨ノ商務省ノ決定成立ス
一九三九年十二月二十二日

別紙下號

米國政府ニ於テ日米通商條約失效後ト雖モ兩國
間ノ通商ハ平常通行ハトシカ爲メ世要ナル措置ヲ執
ルニ決定セラレタルハ因ニ多トスル所ニシテ又右ニ對スル貴大
使ノ御盡力ヲ深ク感謝スル次第ナリ

但通商條約ノ問題ハ單ニ兩國通商關係ノ問
題ニ止ラズ一般の國交ニ関スル所大ナルヲ以テ日米
間分無條約狀能心ナリタル時假令通商關係が大体
平常通り維持セラルト雖モ暫定的ニテモ何等取極
ナキ場合ハ兩國間ノ通商が明日ヲモ測ラザル不安
ノ觀ヲ呈スベク若シテ兩國ノ國交が如何ニモ不安
定ナル印分ヲ與ヒテトナルヲ以テ日米關係改善ノ大局
的見地ヨリ暫定協定締結方ニ付貴國政府ノ深
甚ナル御考慮ヲ得ル様致度
日本側ニハ夙ニ此ノ見地ヨリ研究結果暫定協定

No. 8

Defence Doc. 1631

ニ付一案ヲ得テ之ヲ在華府塘内大使ニ電報ニテテトハ
是裏ニ吉澤局長ヨリフドマンシテ參事官ニ申上ケル
通ナルハ華府ニ於ケル談合ノ都合ニ依リ右邊キ國
務省側ニ提出スルニトナリ居ル次第御旨置アリ
度